

# 【国際経済】 林 光洋 ゼミ



フィリピン大学の学生・教職員と(2017年9月)



ゴミ山とスラム街で有名なマニラ市トンド地区で子どもたちと(2017年9月)

## 演習テーマ： 発展途上国の経済を学ぼう！

発展途上国の経済・社会について調査・研究を行います。具体的には、開発経済学、国際開発論、経済発展論、国際協力論などの学問分野が中心になります。

### <活動内容>

・発展途上国の実態を把握し、開発の促進・阻害要因を理解するためには、学問間の壁を乗り越えて考える柔軟な姿勢と掘って立つ基本的な考え方の枠組みの両方が必要です。また、開発分野は、他の分野以上に現場の感覚を併せ持つことが求められます。そこで、本演習は、開発経済学に軸足を置きつつ、しかし研究の対象を経済面に限定せず、教育、保健・医療、ジェンダー、環境・エネルギー等の社会・環境面へも広げ、学際的に開発問題を扱っていきます。具体的には、2年生からの3年間を通して、以下の分野を中心に学習・研究する予定です。

- (1) 開発経済学: 開発経済学の基礎と潮流
- (2) 格差と貧困: 格差・貧困の現状・原因・削減策、経済成長・格差・貧困の関係、貧困とマイクロファイナンス
- (3) 産業開発と海外直接投資: 農業開発、工業開発、経済発展と中小企業開発、貿易と海外直接投資、
- (4) 社会開発: 教育開発、保健・医療開発、人口問題、女性開発(ジェンダー)
- (5) アジア経済発展の経験: 日本の経験、アジア発展途上国の経験、アジアの経験とアフリカ



(6) 環境と開発:環境・資源・エネルギーと開発

(7) 国際協力:ODA、国際開発機関、NGOs、民間企業の国際協力、CSR、BOPビジネス、フェアトレード

- ・文献からの知識獲得に加えて、開発の専門家への接触・インタビューを通じて教室と現場をつなぐ授業を試みます。
- ・ゼミ員の希望の強さ、やる気の大きさ、学習到達度、準備の程度等に応じて、途上国でのフィールド調査の実施(3年次の夏)を検討します。頭だけではなく、体でも途上国経済、国際協力を理解することが重要です。
- ・このゼミはチームワークを大切にしています。学年内はもちろん、通常、2年生から4年生までの学年を超えた関係、FLPの林ゼミとの関係を緊密にするよう努めてもらいます。在学生間の関係に加えて、OB・OG会を通じて、卒業生と交流の機会を作り、社会に出るための準備もしてもらいます。

### <ゼミ紹介>

林ゼミでは、援助実施機関、調査・研究機関、民間企業、NGO、他大学等との交流を通じて、開発の実践的体験を経験することができるように工夫します。これまで、UNDP(国連開発計画)、UNIDO(国連工業開発機関)、WFP(国連世界食糧計画)、ADB(アジア開発銀行)、IDB(米州開発銀行)、JICA、日本ユニセフ協会、国際開発センター、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、日本経済研究センター、日本グローバル・イニシアティブ協会、A&Mコンサルタント、シャンティ国際ボランティア会、第三世界ショップ、ICAN、LIFE(地球の友と歩む会)、日揮、東洋エンジニアリング、IHI、双日、電通、アクセンチュア等さまざまな機関、団体、企業からゲストを招いて講義や指導をしてもらっています。

2017年度は、フィリピンを訪問し、①教育班、②福祉班、③廃棄物マネジメント班、④マイクロファイナンス班の4班で現地調査を実施しました(過去、インドネシア、フィリピン、ラオスを訪問)。調査対象国の選定から、研究分野の設定、研究計画の立案、訪問先へのアポイントメント取得、ロジスティクスの手配、論文執筆までほぼすべてを学生たち自らが行ないます。それら現地調査の結果をベースにした、2011年度以降続いている訪問授業を、2017年度は中央大学附属高校、中央大学杉並高校、中央大学高校、神奈川県立相模原高校の4校に対してゼミ学生が自主的に行ないました。ゼミで学んだこと(インプットしたこと)を社会に還元する(アウトプットする)活動も積極的に行なっています。

FLPと経済学部の林ゼミは、白門祭、生協のフェア、講演会等を通して、フェアトレードの普及、啓蒙・啓発に努めています。2016年度以降、日本ユニセフ協会と協力して、講演会や募金ボランティア活動を実施しています。このような活動を積極的に行なってきたOB・OGは、外務省、JICA(青年海外協力隊を含む)、国際機関、NGOs、三井物産、トヨタ自動車、海外の大学院等へ進んでいます。

### <学生が作成するゼミホームページ>

<http://e-faculty.chuo-u.ac.jp/~mhayashi/>

### <活動紹介:「草のみどり」抜粋>

林光洋ゼミナール活動報告(1):私たちがラオス現地調査プロジェクトから学んだこと(第252号 2012年1月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201201.pdf>

林光洋ゼミナール活動報告(2):中学校・高校向け訪問授業とそこから学んだこと(第253号 2012年2月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201202.pdf>

林光洋ゼミナール活動報告(3):国際協カイベント「グローバルフェスタ JAPAN2011」に参加して(第254号 2012年3月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201203.pdf>

林光洋ゼミナール活動報告(4):鈴木敏文奨学金を受給して青春をかけたフィリピン現地調査(第256号 2012年6月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201206.pdf>

FLP国際協力プログラム活動報告:笑顔をつなぐフェアトレードー学生が取り組む普及活動ー(第255号 2012年5月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201205.pdf>

林光洋ゼミナール活動報告(上)・(下):「インドネシアの人々の生活基盤向上に関する研究」を通して学んだこと(第293号 2016年2月発行、第294号 2016年3月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201602.pdf>

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201603.pdf>

経済学部から世界をひらく:国際協力分野で活躍する林光洋ゼミナールの先輩(第295号 2016年5月発行)

<http://www2.chuo-u.ac.jp/econ/kjim/201605.pdf>